

学会録事

平成14年度日本藻類学会の運営方法について

日本藻類学会の運営はその年度の大会時(3月末)に開催する総会で基本案件の審議・承認を受け行われてきたが、平成14年度の大会は「Algae2002」(7月:つくば市)に組み込まれるため、それまで総会開催の機会がない。従って、会計決算・予算、庶務報告・事業予定、編集報告・出版計画等、学会の基本的な運営にかかわる案件を半期以上審議・承認を受けないまま経過することになる。学会の行事が例外的な日程で進められるとはいえ、このままの学会運営は避けなければならない。そこで平成14年度は総会開催までの期間、会計、編集、庶務、会員管理関係で総会の承認を必要とする基本案件をとりあえず持ち回り評議員会(同年3月までに開催)で仮に承認していただき、7月(総会)にあらためて正式に審議・承認を受ける予定である。この変則的な運営方法を予めご承知おきいただきたい。

植物分類学関連学会連絡会第14回会議報告

標記の第14回会合が日本植物学会第65回大会会期中の2001年9月28日に東京大学駒場キャンパスで開催された。藻類学会からは菱沼佑庶務幹事が出席した。本学会以外では地衣類研究会、種生物学会、植物地理・分類学会、日本植物分類学会、日本シダ学会、日本蘚苔類学会の各代表者が出席し、以下の議題について話し合われた。

1)合同名簿について、作業の進捗状況が報告され、出版経費等の負担方法や印刷・発送について話し合われた。経費負担については前回と同様に名簿掲載者から実質会員数を算出し、それをもと

に各団体が経費を負担することが確認された。

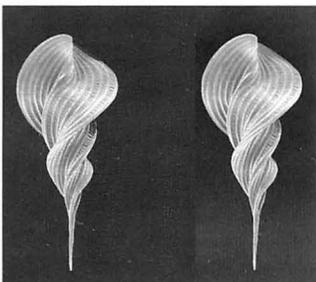
2)植物学会時における連絡会主催のシンポジウムは、来年度も実施することになった。具体的なテーマの決定にはいたらなかったが、日本蘚苔類学会の神田啓史氏と種生物学会の芝池博幸氏に生物多様性のデータベース構築に関連した内容のシンポジウムの企画をお願いすることとなった。

3)現在、動物分類学関連学会連合と植物分類学関連学会連絡会参加学会を統合した日本分類学会連合(仮称)設立の計画があり、この分類学会連合への植物分類学関連学会連絡会としての対応について話し合われた。日本分類学会連合と植物分類学関連学会連絡会との関係は独立したものであり、日本分類学会連合への参加等は、各連絡会参加学会の意志によるものであり、本連絡会としてはこれまでどおり活動していくことになった。日本分類学会連合への参加について、ほとんどの植物分類学関連学会連絡会参加学会では正式な設立の趣意書や参加要請は受け取っておらず、具体的な検討に入っていない学会がほとんどであった。

4)さきにIAPT(International Association of Taxonomy)から2004年に日本での開催要請のあったIAPTシンポジウムは、同年8月上旬開催を予定しており、日本植物学会や韓国植物学会の共催も受け、アジアの研究者が全世界的な植物分類学研究にどのように貢献できるかなどをテーマに準備が進行していることが報告された。

5)岩槻氏が関係しているGBIF(Global Biodiversity Information Facility)について、本連絡会は、今後とも協力していくことになった。

表紙の説明



Phacus sp. (ミドリムシ藻)のSEM立体写真
井上 勲氏(筑波大)提供

日本藻類学会50周年記念グッズ写真集掲載予定の写真です。

会 員 移 動

編集後記：

今、この時ぞと牛を喰らい、株を買い、飛行機に乗った。結局何一つ人間には無用の物であり、行為であることを実感。貧乏人は麦を食い、ほろ服を着てようやくとやすらぐ。

またまた、ひとつ歌を。

「潮満ちて、ナノリソの実の、ささやきは、七つの海の、ざわめきか」(J.T)

世界中で不幸な出来事が勃発して、慌ただしい今日この頃です。こうして学会誌を編集してられる日本は平和なのでしょうか。本号を無事刊行すれば、編集を担当させて頂いて3分の2が終わります。次巻から50巻、もう一踏ん張り、気を引き締めて頑張りたいと思っています (T.N.)。